

はじめに

篠崎 文哉(大阪教育大学)

松山 鮎子(大阪教育大学)

第 3 部では、本手引きで紹介する事例をはじめとして、カリキュラム・マネジメントをより高いレベルで学校全体に実装するために有用な理論と先行事例を紹介する。教科等横断的な視点を取り入れた教育活動のカリキュラム開発においては、その理論的背景を理解しておくことが不可欠である。

まず、第 1 章では理論を中心に紹介する。第 1 章第 1 節では、STEAM 教育の歴史的背景、STEAM 教育の必要性、STEAM 教育実現に向けた実践の分析を取りあげる。第 2 節では、自由研究と OECD ラーニング・コンパスや総合的な学習の時間との関連性について示す。第 3 節では、自由研究を事例に、実際の生徒の振り返りと教員の見取りから、探究学習における論理力や表現力の指導について述べる。第 4 節では、同じく自由研究を事例に、探究的な教育実践の中で生じる問題解決がどのように進行していくのかを示す。

また、第 2 章では、先行事例や想定される実践事例について紹介する。第 2 章第 1 節では、子どもたちの学びと成長を支える地域の基盤を再構築することに向けた、学校と地域の連携・協働のあり方を、カリキュラム・マネジメントの視点から先進事例とともに紹介する。第 2 節では、教科等横断的な視点が求められる STEAM 教育の実践事例のあり方と教科間の連携について音楽科の視点からその可能性を中心にまとめた。

カリキュラム・マネジメントは各学校や学年の特性に応じて着手を始めるアプローチが異なるが、その着実な実践には理論的な背景が欠かせない。第 3 部で紹介した理論や事例が、目指す理念や目的に合わせたカリキュラム・マネジメントの実践の一助になれば幸いだ。